

## ヨハネの福音書 14 章 1-9 節

わたしが道であり、真理であり、いのちです (1)

14:1 「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。14:4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。14:7 あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずですが、しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」14:8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。」

今日も、ヨハネの福音書にあるイエス様による7つの”I Am...”と言う断言についてお話します。イエス様は、自分自身に対して神様の名前を使って、つまり出エジプト記3:14の「私は私はある。」と言う言葉をそのまま使うことによって、自分は永遠の神の子だと断言しています。

今日はヨハネの福音書の14:6を中心に話します。

14:6 「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

最初にこれを読む時、イエス様の「私は道、真理、いのちです．．．」と言う断言は全然違う三つの事について話しているかのように思えます。でも、実はこの三つは切り離す事が出来ないほど深い関係を持っています。後でこの三つの事がどのように繋がっているかを話したいと思いますが、一回の礼拝のメッセージだけで、この三つの事を全部十分に話す事が出来ませんから、3回に分けて話したいと思います。

今日は「私は道です」と言う部分に焦点を合わせてお話します。

### 1. 神様の唯一の救いの道である

14:6b 「私を通してでなければ、誰一人父のもとに来る事はありません。」

2週間前に「私は門です。」と言うイエス様の断言について話した時に同じ事を説明しました。

10:9 「わたしは門です。だれでも、わたしを通してはいるなら、救われます．．．」

今日の14:6の箇所では、更にはっきりした言葉でご自身が唯一の救いの道だと、そして神様への道であり、天国への道だと断言しています。

イエス様は最後の晩餐の席で自分の時が来たときと知った上で、つまり自分の生まれた最大の目的を果たすべく十字架の上で自分の命を捧げる時が来たときと分かって、今日の箇所の14章1節から、天国に帰って自分の信者達の為に場所を備える話を始めました。

14:1 「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」

これを読んで、これがその時の弟子達だけの為に天国で場所を備えるという意味で解釈して、2000年程経っている今の私達の為の約束ではないと思う人がいるならば、次の箇所も見て安心して下さい。

ヨハネの福音書17:20-21&24.

「17:20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。17:21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおられるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。 . . .

17:24 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。」

イエス様は、祈って答えられなかった事が一度もない大祭司です。イエス様の祈りは絶対に答えられます。そして使徒になった最初の弟子達の言葉が新約聖書で、それによって信じている人の中に私達が含まれています。しかも、私達は天国に入るだけではなくてそこでイエス様の全ての栄光も見させていただけるのです。イエス様の栄光を完全に見る時に私達も完全にイエス様と同じ栄光の姿に変えられます。

ヨハネ第一3:2 「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」

ですから、心を騒がしてはなりません。最初にヨハネ14章から読んだ時に、時間の関係でイエス様が弟子達に話した言葉の一部しか読みませんでした。終わりの方の27節を見て下さい。

ヨハネ14:27 「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」

最初にも最後にも「心を騒がしてはなりません。」とあります。その意味は、どんな時でも、私があなた方に与える私の平安の中で生きて、死も含めて何も恐れるような事はない、ということです。

## 2. 私達の自分勝手な道

イザヤ書53:6 「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。」

これは、イエス様の生まれる700年ほど前に預言された箇所で、

v5節にも「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」

とあります。

「おのおの、自分かつてな道に向かって行った。」 この為にイエス様は十字架の上で身代わりとして死んで下さったのです。これが罪の性質をそのまま説明しています。神様の道を選ぶよりも、人間は神様から離れて独立した自分の道を選びたいからです。

第二コリント5:15 「また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」

これはイエス様の十字架の目的が教えられているのと同時に、罪の悔い改めの本質も教えています。

私は20歳の時に、映画の場面でキリストの十字架を見た時に、それまで犯してきた全ての罪は自分勝手な生き方によって生まれたという事を示され、それが神のひとり子を殺したということが初めて見えたので、悔い改める事が出来て救われました。映画の場面の中で次の聖書の言葉が引用されていました。

第一ペテロ2:24 「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」

ペテロは先ほどのイザヤ書の預言を引用してこれを書きました。

聖書は人間にとって、二つの道しかないと教えています。

マタイ7:13-14 「狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」

2週間前の「私は門です。」のメッセージの終わりにこの聖書箇所を開きましたが、二つの門と二つの道しかないとイエス様は教えています。神様の定めた狭い門と狭い道はイエス様です。大半の人が選ぶ大きい門と広い道は自分勝手な門です。つまり、大半の人と合わせて行く道の方が楽で人気ですが、永遠の滅びに至る道なのです。

イエス様以外の道を選んでいる世界中の宗教は神様を選んだ救いの道ではなくて自分の選んだ道です。

使徒17:22 「そこでパウロは、アレオパゴスの真中に立って言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。

17:23私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に。』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。」

17:30「神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。」

ですから、聖書の教えで悔い改めのない人に救いはありません。どんなに宗教に熱心であっても、悔い改めてキリストを信じていないなら、それは神様の目には自分勝手な道です。宗教的に熱心であっても、そのような信仰心でも、悔い改めていなければ聖書では不信仰と言う罪になります。神様が全ての人に命じているのは、先ず不信仰と言う自分勝手な道を悔い改めることです。

イエス様の最初の説教でイエス様は

マルコ1:15「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」

とされています。これだけで全ての罪が赦されて救われます。もちろん、救われてから、特定の罪を悔い改めることが必要な時もあります。

3. 神様は全ての人の救いを望んでおられます。

2:4-5「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。

2:5「神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。」

イエス様は人類の中で唯一罪のない人間として、唯一の仲介者になる事が出来ました。自分の道を悔い改めてイエス様を主だと告白したら、初めて神様の真理を知るようになります。聖書の中でこの順序になっているのは偶然ではなく、救われて真理を知るようになる大切な順序です。

救われていない人は神様の真理を理解出来ないので、イエス様が唯一の救いの道ということに納得いかないし、逆にこの教えが何よりもつまずきになってしまいます。もちろん、日本人だけではなく、世界中で救われていない人々にとって一番納得いかない教えは、イエス様以外に救いはないということです。2週間前に見たもう一つの箇所をさらに付加えたいと思います。もう一度見て下さい。

使徒4：12 「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

その前の言葉、

使徒4：11『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった。』というのはこの方のことです。」

こう言った背景を簡単にまとめます。

使徒ペテロとヨハネはエルサレムの宮の前で生まれ付きの足が効かない人をイエス様の名前によって癒してから、集まって来た人々にイエス様の福音を延べ伝えていた為に逮捕されました。次の日に国の指導者に取り調べを受ける時に、ペテロはこの言葉を言いました。あなた方は聖書に書いてある預言通りに家を建てる立場にあるのに、神様に選ばれている礎の石を殺す事によって捨ててしまった、ということです。

ペテロは自分の書いた手紙でもまたその礎の石について書きました。

第一ペテロ2:6「なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」

2:7 したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった。」のであって、

2:8 「つまずきの石、妨げの岩。」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められていたのです。」

ここで気を付けなければならないことですが、この最後の言葉は神様が彼らを滅びに定めたという意味ではありません。同じペテロが第二の手紙ではっきり書いています。

第二ペテロ3:9「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」

でも、悔改めないで自分の道を最後まで選ぶ人は永遠の滅びに定まってしまう、ということです。これに納得いかない人の議論の一つは、イエス様の福音を聞いた事のない人達に対して不公平だということでしょう。神様は差別をしないですべての人を公平で平等に扱う方です。聖書の中の一つの実例を見ましょう。

使徒10:34-35 「そこでペテロは、口を開いてこういった。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、10:35 どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。」

ここで話の全部を読む時間はないので、興味のある人は後で10章1節から読んでみてください。簡単にまとめて言いますが、キリストの福音を聞いた事のないイタリア人の兵士の百人隊長は自分の道ではなくて神様の道を求めていつも祈っていました。どの神様に祈っていたが書いてありませんが、小さい時から、ローマ帝国の神々を教えられていたに違いありません。でも、祈っている内に神様の御使いが彼に現れてキリストの福音を聞けるように使徒ペテロのいる場所を教えて招待するように伝えました。それによって彼とその家族全体がペテロからキリストの福音を聞いて救われました。しかも、ペテロはその当時、ユダヤ人として他の国の人の家に入る事が禁じられていましたが、神様は前持って啓示を通してペテロに行ってもいいように示して下さいました。つまり、自分勝手な道を捨てて神様を心から求める人はどこの国でも、必ず、唯一の救いの道であるイエス様のもとに導かれます。

まとめ

聖書全体の中での神様の典型的な働き方は、道のない所で道を作って下さることです。少し前に一緒に見た御言葉には、

第一ペテロ2:6「なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」

とありました。主により頼む人は決して、どんな時でも、希望を失う事はありません。行き詰まりの不可能な人生を与えて下さいます。別の箇所にも、イエス様は私達の為の新しい生ける道だと呼ばれています。

第二コリント9:15「言葉に表せないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。」